

**立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金
企画研究プロジェクトⅡ（教員・学生参加型） 2017年度研究成果報告書**

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏名
	スポーツウエルネス学科 3年	佐々木彰吾 印
指導教員	所属・職名	氏名
	コミュニティ福祉学部 教授	濁川孝志 印
研究課題	プラネタリウムが人の心に与える影響～出張型プラネタリウムの活用性～	
研究年度	2017年度	
プロジェクト 分担者	15id145j 松川財 15id1131 村松達也 15ha214k 井出大成	

プロジェクトの内容及び成果の概要

私たちは、プラネタリウムが人々に与える影響に関して研究しました。また、星を見ることが難しい人に対してもアプローチできるように、出張型のプラネタリウムの活用性に着目しました。その過程で、一般社団法人星つむぎの村の方々をお呼びしたり、活動に参加させていただく形で調査を行いました。活動歴としては、4月に活動を開始し、プロジェクト企画、メンバー構成を行いました。6月にはあきる野市西多摩療養支援センターに出向き、初めて出張型プラネタリウムを見るときともに、ボランティア活動をしました。10月には山梨県北杜市の青空共和国にて、障害のある子供達とその保護者の集まる団体特定非営利活動法人筋無力症患者会の方々との交流を通し、出張型プラネタリウムの活用性を学びました。実際に星空を見上げることは出来ませんでした。そういう場合にも出張型プラネタリウムの効果を知ることが出来ました。また、新座キャンパス内にて、出張型プラネタリウムを見てもらえるように企画し、参加者の募集、場所の確保、ほしつむぎの村の方々との渉外まで、企画から実施までを通し多くのことを学びました。新座キャンパス内のプラネタリウムでは、アンケートを作成し回答してもらい、気分の変化を中心に調査しました。ポムス調査とタスナイン調査を実施し、脈拍を図ることで数値的な変化に関する調査もしました。12月東邦大学大森キャンパスにて、ファミリーエージェンシーの方々とほしつむぎの村の方々とともに出張型プラネタリウムのボランティアをさせていただきました。

プラネタリウムを通して、見た後のほうが見る前よりもリラックスできた、ネガティブな気分の時にプラネタリウムを見たいなどという、気分を落ち着かせる効果を得ることが出来ました。怒り、混乱、疲労、緊張に関してはプラスの効果を得られたが、活気や友好といったものに関してはプラスの効果がないこともわかりました。

プロジェクトの企画から実施までを通し、自分たちで考え、行動すること、人として当たり前前の行動をとることなど、プラネタリウムの事以外でも学ぶことは多かったと思います。また、普段星を見ることが少なくなってしまった自分たちを含め現代社会に寂しさを覚えるとともに、ほしつむぎの村の方々の活動を協力させて頂く中で、星の魅力を再確認することも出来ました。出張型プラネタリウムという手段は普段星を見ることが難しい、長期療養の子供達を対象にできることや、説明付きのナレーションを聴きながら星を見ることが出来るため、知識の幅も広がるという活用性を気づくことが出来ました。こうした活動を通し、星だけでなく魅力ある自然の力を社会に再認識してもらうことで、人々の生きがい観や、より人生を良いものになれば良いと思います。